

## 中学校 社会科 シラバス

### 3年間のねらい 学習目標

全員が1年生で地理的分野、2年生と3年生で歴史的分野、3年生で公民的分野と社会探究を学ぶ。地理は空間の広がりに着目し、地点や地域、地形自然環境との関係を追って、歴史は時間の流れに着目し時間や地域を追って、どのような原因や経緯・関係性の中に我々や我々と関係する他者が現状にあるのかを捉え、説明しようという学びである。時間や空間のなかで、自分や他者、それぞれを取り巻く政治・経済・社会・文化・自然とのかかわりなど特徴をつかみ、適切に描写できるようになることをめざす。また、公民は地理や歴史の学習を基礎に、政治や経済・国際関係などの現代社会に関わる問題をどのように理解し、どのようなところに課題や解決すべき問題があるのかを学ぶ。いずれの分野でも、SDGs（持続可能な開発目標）を意識し、身近な世の中であなたが解決すべきだと感じている問題や、世界でおきている問題の解決に、学習した内容や技能を応用する学習を行うが、特に公民では、社会に出て活躍する準備として、さまざまな問題に自らの見識をもって、自分事として関わられるようになることをめざす。

社会科の学習の総まとめとなる社会探究では、特定の課題を取り上げ、その課題について、社会科的な視点や考え方を応用して、どのようにアプローチすれば良いのかを、勉強するみなさんのこれまでの生活や経験、将来の進路や生活に結びつけ、より深く探究する。その過程で、目の前の具体的な問題について、学校の授業で学んだことと、みなさんの感性や問題意識を結びつけ、解決できるようになることをめざす。

社会科の学びの中で特に意識して欲しいことは、自分はどのような意識・感覚で世の中にまつわる様々なことととらえようとしているのか、友人や先生、ご両親などのとらえ方とどこが同じで、どこが違うのかに敏感になることである。たとえば、ある人が別の人とけんかをしているとしよう。これを見た人は「二人がけんかしている」という。それは事実だということかもしれない。しかし、その人の話を、気をつけてよく聞いてみると、その人がけんかしている二人を止めたいと思って話しているのか、それとも二人のけんかを非難しているのか、あるいはあわよくば二人が共倒れしてくれれば良いと思っているかはわからない。世の中について知識をたくさん持っていることは大切だが、その知識が何のために、どのような目的や脈絡の中でどのように使われているのか、誰にとって大切な知識で、どのような意味があるのかを、知識について話す人の取り上げ方とともに理解し、そのようなとらえ方で本当に良いのか、しっかり考えられるようになって欲しい。その上で、自分は世の中についてどのような問題意識で、どのように説明すれば良いのかを自覚して選択し、話したり書いたりできるようになってほしい。

なぜなら、みなさんは家族、友だち、地域、国、世界など、さまざまな単位や広がりの中で世の中を支える大切な存在だからだ。みなさん一人ひとりが世の中をどのようにとらえ、どのように世の中と関わろうとするかで、伝統の守っていくべき部分が守られ、変わっていくべき部分が少しずつ変わっていく。社会科の学びの中で、世の中を適切に語り、共に課題を解決していくために、世の中について、自分と関わりを持つ人が納得できる説明をできるようになる。

第1学年	教科書	『社会科 中学生の地理』（帝国書院）
地理的分野 (週4時間)	副教材	『中学校社会科地図』（帝国書院） 『アドバンス中学地理資料』（帝国書院）

### 学習到達目標

世の中で見られる様々なできごとや社会の仕組み、社会現象などについて、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用・地域などに注目し、証拠となることながら適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。授業を中心とする学びのなかで、地理に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、地理的な見方・考え方をはたらかせて、世の中でおこる出来事や社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①日本と世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解する。  
②調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) ①地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察する力を養う。  
②地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

- (3) ①日本や世界の地域に関わる諸事象について、学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
- ②地理に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し国土を大切に、他国や他国の生活・文化を尊重することについての自覚を深める。

**評価の観点**

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	<p>①日本と世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できる。</p> <p>②調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめることができる。</p>	<p>①地理に関連する世の中の様々な出来事や社会の様子について、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、意味や意義を多面的・多角的に考察できる。</p> <p>②地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明し、それらを基に議論する力を身につける。</p>	<p>①日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究、解決しようとすることができる。</p> <p>②地理に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、国土を大切に、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる。</p>

**学習方法**

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう。
- ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとる習慣をつけよう。
  - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
  - ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切である。授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわく。
  - ④ 社会科が苦手な人ほど、社会科は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。つまり、知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。
- (2) 課題にしっかり取り組もう。問題集やしらべもの、調査、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーション、ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練である。大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなる。面倒くさがらずに、一生懸命取り組んでほしい。
- (3) 授業と世の中の接点を意識し、ニュースや新聞で報じられていることとの関係を考えよう。  
世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係している。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、社会科が得意になるための早道だといえよう。
- (4) ふとした疑問を大切にしよう。なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。町で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした情報が不確かなこと、もっと適切な説明があることが考えられる。感じた疑問を放置せず、粘り強く食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、社会科が大切にすることも基本的なアプローチである。
- (5) 地図帳や統計、Google EarthやGoogle Mapなどの地理情報システム(GIS)に親しもう。  
地図や統計情報、GISに親しみ、使っていると自然に知識が増え、地理が得意になる。

**年間シラバス (1年間の学習予定表)**

<週4時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	<p>1. 世界と日本の地域構成</p> <p>①世界の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの住む地球を眺めて</li> <li>・いろいろな国の国名と位置</li> <li>・緯度と経度</li> <li>・地球儀と世界地図の違い</li> </ul> <p>②日本の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の中での日本の位置</li> <li>・時差でとらえる日本の位置</li> <li>・日本の領域とその特色</li> <li>・都道府県と県庁所在地</li> </ul> <p>2. 世界のさまざまな地域</p> <p>①人々の生活と環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のさまざまな生活と環境</li> <li>・暑い地域の暮らし～インドネシアでの生活～</li> <li>・乾燥した地域の暮らし～アラビア半島での生活～</li> <li>・温暖な地域の暮らし～スペインでの生活～</li> <li>・寒い地域の暮らし～シベリアでの生活～</li> <li>・高地の暮らし～アンデス山脈での生活～</li> <li>・世界各地の衣食住とその変化</li> <li>・人々の生活と宗教の関わり</li> </ul> <p>②世界の諸地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア州</li> <li>・ヨーロッパ州</li> <li>・アフリカ州</li> <li>・北アメリカ州</li> <li>・南アメリカ州</li> <li>・オセアニア州</li> </ul>	<p>ア. 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。</p> <p>イ. 世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を理解している。</p> <p>イ. 日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受け、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えることを理解している。</p> <p>ア. 世界各地の人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解し、世界の主な宗教の分布についても理解している。</p> <p>イ. 世界各地の人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。</p> <p>ア. アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を理解している。</p> <p>イ. アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセア</p>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理についての知識・理解</li> <li>・地理を理解・解釈するための技能・調査方法</li> <li>・地理についての思考・判断・表現</li> <li>・地理的分野の学習に主体的に取り組み、地理的分野で学んだことながらを主体的に活用しようとする態度</li> </ul> <p>【評価方法】〔各学期共通〕</p> <p>1. 定期考査の成績</p> <p>定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、地理的な見方、考え方、地理についての判断や表現、地理に関する知識や理解、技能・調査を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p> <p>(1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。</p> <p>(2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
-------------	--	---	--

		<p>ニア州の各州について、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
2 学 期	<p>3. 日本の様々な地域</p> <p>①身近な地域の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査テーマを決めよう</li> <li>・ 調査方法を考えよう</li> <li>・ 野外調査を実行しよう</li> <li>・ 調査を深めて結果を発表しよう</li> </ul> <p>②日本の地域的特色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山がちな日本の地形</li> <li>・ 川がつくる地形と海岸や海洋の特色</li> <li>・ 日本の気候</li> <li>・ 日本のさまざまな自然災害</li> <li>・ 自然災害に対する備え</li> <li>・ 日本の人口</li> <li>・ 日本の資源・エネルギーと電力</li> <li>・ 日本の農業・林業・漁業とその変化</li> <li>・ 日本の工業とその変化</li> <li>・ 日本の商業・サービス業</li> <li>・ 日本の交通網・通信網</li> <li>・ さまざまな地域区分</li> </ul>	<p>ア. 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。</p> <p>ア. 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。</p> <p>イ. 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。</p> <p>ア. 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。</p> <p>ア. 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。</p> <p>ア. 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。</p> <p>ア. 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解している。</p> <p>ア. 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。</p> <p>イ. 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多</p>	

	<p>③日本の諸地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州地方</li> <li>・中国・四国地方</li> <li>・近畿地方</li> <li>・中部地方</li> <li>・関東地方</li> <li>・東北地方</li> <li>・北海道地方</li> </ul>	<p>面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>イ. 日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>ア. 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。</p> <p>ア. (1)自然環境を中核とした考察の仕方、(2)人口や都市・村落を中核とした考察の仕方、(3)産業を中核とした考察の仕方、(4)交通や通信を中核とした考察の仕方、(5)その他の事象を中核とした考察の仕方などで取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。</p> <p>イ. 日本の諸地域において、それぞれ上の(1)から(5)までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>ウ. 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
3 学 期	<p>4. 地域の在り方</p> <p>①地域の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の在り方</li> <li>・課題を把握しよう</li> <li>・地域をとらえよう</li> <li>・課題の要因を考察しよう</li> <li>・課題の解決に向けて構想しよう</li> <li>・課題の成果を発信しよう</li> </ul>	<p>ア. 地域の実態や課題解決のための取組を理解している。</p> <p>ア. 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。</p> <p>イ. 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。</p> <p>ウ. 地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	

※学習の順序や学期ごとの学習内容については、担当者の配置により、適宜分担して内容の担当範囲を設定し、学習順序を変更することがある。

第2・3学年	教科書	『最新 新しい日本の歴史』(育鵬社)
歴史的分野	副教材	未定

(週 4 + 1 時間)		
--------------	--	--

### 学習到達目標

世の中で起こる出来事やしくみ、社会現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、家族・地域・国家・世界などの様々なレベルの社会で自らの意志と判断にしたがって生活し、それらの社会をより良くしていくために必要な資質・能力の基礎として、以下のとおり、知識・理解・技能・能力・態度などを身につける。

- (1) 日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- (2) 歴史上のできごとや現象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする姿勢や、多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本の歴史や伝統を尊重し、他国の人々と協調しようとする態度を身につける。

### 評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色をふまえて理解できる。 ②諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとすることができる。 ②多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本の歴史や伝統を尊重し、他国の人々と協調しようとする態度を身につけている。

### 学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう。
  - ① 授業に積極的に参加しましょう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとるくせをつけてください。
  - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしましょう。
  - ③ 予習復習をこまめにしましょう。苦手な人ほど予習も大切。授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわきます。
  - ④ 社会科が苦手な人ほど、社会科は単純な暗記科目であるという誤解をしています。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できます。つまり、知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切です。
- (2) 課題にしっかり取り組みましょう。問題集やしらべもの、調査、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーションノート提出など様々な形の課題が課せられます。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練です。大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなります。面倒くさがらずに、一生懸命取り組んでください。
- (3) 授業と世の中の接点を意識し、ニュースや新聞で報じられていることとの関係を考えましょう。世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係しています。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、社会科が得意になるための早道です。
- (4) ふとした疑問を大切にしましょう。なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそ

のような説明がされているのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がま  
 ずいこと、もっと適切な説明があることはままあります。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下  
 がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれません。「なぜ」にこだわって調べるのは、社会  
 科が大切にするもっとも基本的なアプローチです。

(5) ご家族や親戚、地域の方が歴史について話していることがあれば、よく聞きましょう。博物館や資  
 料館を訪ねてみるのも良い経験です。学校で習う歴史の説明と同じかどうか良く聞き比べてください。

**年間シラバス** (1年間の学習予定表)

第2学年<週4時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	<p>1. 年代や時代区分の表 し方</p> <p>2. 原始と古代の日本 ・海洋国家日本の歩み① ・歴史絵巻～原始・古代～ ①日本のあけぼのと世界 の文明 ・日本列島ができたころ の人々 ・豊かな自然と縄文文化 ・文明のおこりと中国の 古代文明 ・稲作・弥生文化と邪馬台 国 ・古墳の広まりと大和朝 廷 ・大和朝廷と東アジア ・世界の宗教と日本</p> <p>②「日本」の国の成り立ち ・聖徳太子の国づくり ・大化の改新と激動の東 アジア ・飛鳥文化・白鳳文化と遣 唐使 ・大宝律令と平城京 ・天平文化 ・平安京と摂関政治 ・新しい仏教と国風文化</p> <p>3. 中世の日本 ・海洋国家日本の歩み② ・歴史絵巻～中世～ ①武家政治の成立 ・武士の登場と院政</p>	<p>ア. 歴史には様々な時代区分の仕方があ ることを理解できる。 イ. 目的に応じて、時代や年代などを適 切に表現できる。</p> <p>ア. 原始・古代という時代の流れと特色を 資料活用してとらえ、概要を理解でき る。 ア. 世界各地で文明や国家がおこったよ うすを理解するとともに、列島独自の 文化に大陸文化が加わり、次第に国の 形が整っていった経緯を理解してい る。 ア. 古代の日本について、様々な資料から 調べ、政治・社会・文化などに分けてそ の特色をまとめることができる。 イ. 日本の形成と発展に大陸が果たした 役割について、多面的・多角的に考察 し、その過程や結果を適切に表現でき る。 ウ. 縄文時代の自然観や宗教観が、現代の 日本人に与えた影響について、意欲的 に調べて考察しようとしている。 ア. 日本の古代文化が、大陸の影響を受け ながら、独自に発展したものであるこ とを、様々な資料から読み取っている。 ア. 律令国家となった日本の政治が、次第 に貴族中心に変化していくようすを、 国内外の動きを踏まえ理解している。 イ. 律令政治がどのように形成され、変容 していったのかを多面的・多角的に考 察し、その過程や結果を適切に表現で きる。 ウ. 飛鳥・奈良・平安時代の文化や史跡に 関心を持ち、意欲的に調べられる。</p> <p>ア. 中世という時代の流れと特色を資料 活用してとらえ、概要を理解できる。 ア. 武家社会やその文化の特徴について、 様々な資料を活用して読み取ってい る。</p>	<p><b>【評価の観点】</b> ・古代から近代の歴史につ いての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するた めの技能 ・古代から近代の歴史につ いての思考・判断・表現 ・歴史的分野の学習に主体 的に取り組み、歴史的分 野で学んだことがらを 主体的に活用しようと する態度</p> <p><b>【評価方法】</b>〔各学期共通〕</p> <p>1. 定期考査の成績 定期考査においては、知 識・理解に偏ることなく、 歴史的な見方、考え方、歴 史についての判断や表現、 歴史に関する知識や理解、 技能を活用して、現代的諸 課題の理解を試み、その解 決を試みようとしている かをみるための問題も出 題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワーク への取り組み、発表や プレゼンテーション など、授業時などの学 習過程で、評価の観点 の各項目について評 価する。 (2)小テストの成績、ノー ト、レポート、ワーク シート、コメントペー パー、振り返りアンケ ートなどの提出状況 やその内容などを評</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武士の世の到来と鎌倉幕府</li> <li>・幕府政治の展開と人々の暮らし</li> <li>・新しい仏教と武士の文化</li> <li>・元寇と鎌倉幕府のおとろえ</li> </ul>	<p>ア. 朝廷と幕府の二つの政府の並存というかたちが形成されたことを、両者の力関係の変化を踏まえて理解できる。</p> <p>イ. 土地の開発・所有という観点から、武士のおこりとその勢力を拡大させていった理由について考察できる。</p> <p>ウ. 武力をもつ集団が政治の実権をにぎっていったようすを意欲的に調べようとしている。</p>	<p>価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
<p>2 学 期</p>	<p>②武家政治の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建武の新政と南北朝の動乱</li> <li>・室町幕府と東アジア</li> <li>・応仁の乱と戦国大名</li> <li>・産業の発達と広がる自治の動き</li> <li>・室町時代の文化</li> </ul> <p>4. 近世の日本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋国家日本の歩み③</li> <li>・歴史絵巻～近世～</li> </ul> <p>①ヨーロッパとの出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ人の世界進出</li> <li>・ヨーロッパ人の来航</li> </ul> <p>②信長・秀吉の全国統一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・織田信長と豊臣秀吉の全国統一</li> <li>・豊臣秀吉の政治と外交</li> <li>・雄大で豪華な桃山文化</li> </ul> <p>③江戸幕府の政治</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸幕府の成立</li> <li>・「鎖国」への道</li> <li>・「鎖国」の時代に開かれていた窓口</li> <li>・身分制度の確立</li> </ul>	<p>ア. 武家の政治の展開について、資料を活用して読み取ることができる。</p> <p>ア. 民衆の動きが盛んになってきた時代の動向を理解できる。</p> <p>ア. 周辺の国々の変化や、それらが日本に及ぼした影響について理解している。</p> <p>イ. 自治の誕生や産業の発展などの社会の変化を、政治と関連付けて考察できる。</p> <p>ウ. 建武の新政に伴う争乱や、応仁の乱に関心をもち、幕府の力がなぜ弱まったのか、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 近世という時代の流れと特色を資料活用してとらえ、概要を理解できる。</p> <p>ア. ヨーロッパによる世界の結合とその影響について、資料を調べ、読み取り、概要を理解できる。</p> <p>イ. ヨーロッパの文物が、日本にどのような影響を及ぼしたのか考察できる。</p> <p>ウ. ヨーロッパ人がなぜ海外に向かったのかを意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 織豊時代の統一事業とこの時代の文化の特色について理解している。</p> <p>ア. 朝鮮出兵の理由と国内外に与えた影響について理解している。</p> <p>ア. 安土・桃山時代の文化の特色を、様々な資料から読み取りまとめている。</p> <p>イ. 戦国時代の争乱から江戸時代の安定へと向かう時代の架け橋として信長と秀吉が果たした役割について考察できる。</p> <p>ウ. 信長・秀吉の統一事業に関心をもち、両者の共通点や相違点について、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 幕藩体制、鎖国、身分制度という幕府を支えた主な政策について理解できる。</p> <p>ア. 幕府の権力と体制がどのように整えられていったのか、様々な資料を調べて整理した結果をまとめられる。</p> <p>イ. 幕府が、自らの支配をおびやかす可能</p>	

	<p>④産業・交通の発達と町人文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・綱吉の文治政治と元禄文化</li> <li>・新田の開発と産業・交通の発達</li> <li>・藩校と寺子屋</li> </ul> <p>⑤幕府政治の改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化と享保の改革</li> <li>・田沼の政治と寛政の改革</li> <li>・欧米諸国の接近</li> <li>・天保の改革と諸藩の改革</li> <li>・江戸の町人文化</li> </ul> <p>5. 近代の日本と世界</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋国家日本の歩み④</li> <li>・歴史絵巻～近代①～</li> </ul> <p>①欧米諸国の進出と幕末の危機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米の市民革命・産業革命</li> <li>・欧米列強のアジア進出</li> <li>・黒船来航の衝撃</li> <li>・尊王攘夷運動の高まり</li> <li>・倒幕と大政奉還、王政復古の号令</li> </ul>	<p>性をもつ大名・朝廷・外国・農民を、どのようにして奪っていったのかを考察し、過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>ウ. 江戸時代に関心をもち、自分の抱く時代のイメージと実際の違いについて、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 社会の安定とともに、人々の生活にも発展と成熟が見られるようになり、文化や教育の発達したことを理解できる。</p> <p>ア. 江戸時代に形成された社会や文化について、様々な資料を活用して考察し、その結果をまとめることができる。</p> <p>イ. 社会の安定と産業・交通の発達、町人文化の形成との関係を考察できる。</p> <p>ウ. 江戸時代の人々の生活に関心をもち、現代との比較に立って、意欲的に調べようとしている。</p> <p>ア. 三大改革や田沼の政治とその結果を比較し、理解している。</p> <p>ア. 幕府が直面した課題について資料を調べ、結果をまとめることができる。</p> <p>イ. 幕政改革の成否について、貨幣経済の発達や社会の変化という観点から考察できる。</p> <p>ウ. 幕政改革を行った人物に関心をもち、彼らの考え方や政策について、意欲的に調べようとしている。</p> <p>近代という時代の流れと特色を資料活用してとらえ、概要を理解できる。</p> <p>ア. 資料から、工業化・近代化にともなう欧米諸国の動向を読み取り、まとめることができる。</p> <p>ア. 当時の国際情勢から鎖国の維持が困難であったことを踏まえ、日本が近代国家となるためには政治体制を幕府から変える必要があったことを理解できる。</p> <p>イ. 市民革命と産業革命の結果、近代国家となった欧米諸国が、鎖国体制を打ち破った経緯について、多面的・多角的に考察できる。</p> <p>ウ. 幕末史に関心をもち、外国船の来航が倒幕の引き金になった理由について、意欲的に調べようとしている。</p>	
3 学 期	<p>②明治・日本の国づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五箇条の御誓文と明治維新</li> <li>・新しい国づくりへの道</li> <li>・学制・兵制・税制の改革</li> </ul>	<p>ア. 明治政府の国づくりの方針や具体的施策について、資料を活用して、過程や結果を読み取り、まとめることができる。</p> <p>ア. 人々の欧米に対する独立の意志が、近</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治初期の外交と国境の画定</li> <li>・岩倉使節団と西南戦争</li> <li>・殖産興業と文明開化</li> </ul>	<p>代国家の建設の原動力であったことを理解できる。</p> <p>イ. 欧米諸国の動向と明治政府の近代化の関係について考察し、説明できる。</p> <p>ウ. 明治維新に関する地域史や史跡に関心をもち、意欲的に調べようとしている。</p>	
<p>③アジア最初の立憲国家・日本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国会開設へ向けて・自由民権運動</li> <li>・大日本帝国憲法の制定と帝国議会</li> <li>・不平等条約の改正への努力</li> <li>・朝鮮半島と日清戦争</li> <li>・ロシアとの激突・日露戦争</li> <li>・国際的地位の向上と韓国併合</li> </ul>	<p>ア. 諸資料を活用し、自由民権運動や日清・日露戦争に関して、適切に読み取り、説明することができる。</p> <p>ア. 日本の近代化の成功や対外戦争での勝利が、諸外国に与えた様々な影響について、多面的・多角的に理解している。</p> <p>イ. 国内の近代化や対外戦争の勝利と欧米との不平等条約の改正との関係について考察し、結果を説明できる。</p> <p>ウ. 明治時代の近代化や日本の国際的地位の変化に関心をもち、その経緯を意欲的に調べようとしている。</p>	
<p>④近代産業の発展と近代文化の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の産業革命と国民生活の変化</li> <li>・西洋文化と明治の文化</li> </ul>	<p>ア. 諸資料から産業発展の様子を読み取り、産業発展の様々な影響を理解できる。</p> <p>イ. 日本の急速な近代化・欧米化の進展の功罪を多面的・多角的に考察し、考察の過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>ウ. 明治の文化や産業の発達に関心をもち、意欲的に調べようとしている。</p>	
<p>6. 二度の世界大戦と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋国家日本の歩み⑤</li> <li>・歴史絵巻～近代②～</li> </ul>	<p>ア. 20世紀前半という時代の流れと特色を、資料を活用してとらえ、理解できる。</p>	
<p>①第一次世界大戦前後の日本と世界</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦</li> <li>・ロシア革命と第一次世界大戦の終結</li> <li>・ベルサイユ条約と国際協調の動き</li> <li>・大正デモクラシーと政党政治</li> <li>・ワシントン会議と日米関係</li> <li>・文化の大衆化・大正の文化</li> </ul>	<p>ア. 諸資料から、第一次大戦の被害とその反省から生じた世界の動きを読み取ることができる。</p> <p>ア. 大正時代の政治の動向、文化の特色、社会の変化を、国際情勢を踏まえて理解できる。</p> <p>ア. 諸資料より選挙権拡大の推移を読み取ったり、まとめたりすることができる。</p> <p>イ. 大正期の日本の国際的な地位について、多角的・多面的に考察できる。</p> <p>イ. 民族自決や共産主義の伸長と、日本の民主化の動向との関係を考察できる。</p> <p>ウ. 民主政治の成熟が促した世界情勢に関心をもち、わが国での影響について、意欲的に調べようとしている。</p>	

※学習の順序や学期ごとの学習内容については、担当者の配置により、適宜分担して内容の担当範囲を設定し、学習順序を変更することがある。

第3学年〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	②第二次世界大戦終結までの日本と世界 ・世界恐慌と協調外交の行きづまり ・共産主義とファシズムの台頭 ・中国の排日運動と満州事変 ・日中戦争（支那事変） ・緊迫する日米関係 ・第二次世界大戦 ・太平洋戦争（大東亜戦争） ・日本軍の進出とアジア諸国 ・戦時下の暮らし ・戦争の終結	ア. 日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争に関して、諸資料から、史上最大の戦争の要因を読み取ることができる。 イ. 世界恐慌後の日本の大陸進出と、米・中・ソなどの反応について理解している。 エ. 国際協調体制の恐慌による崩壊と、ファシズムの成長の関係を考察できる。 オ. 日本における政治家と軍部の対立と、その関係の変化について考察できる。 カ. 戦争の原因やその過程、被害の状況に関心をもち、戦争がどのようにして起こったのかについて、意欲的に調べることができる。	<b>【評価の観点】</b> ・現代史についての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するための技能 ・現代史についての思考・判断・表現 ・歴史的分野の学習に主体的に取り組み、歴史的分野で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度  <b>【評価方法】</b> 〔各学期共通〕  1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方、考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
2 学期	7. 現代の日本と世界 ・海洋国家日本の歩み⑥ ・歴史絵巻～現代～ ①第二次世界大戦後の占領と再建 ・占領下の日本と日本国憲法 ・朝鮮戦争と日本の独立回復 ・朝鮮戦争と日本の独立回復 ・冷戦と日本	ア. 20世紀後半という時代の流れと特色を、資料を活用してとらえ、理解できる。 イ. 諸資料から、東西両陣営の対立の推移について読み取ることができる。 エ. 占領政策が冷戦の進行によって影響を受けたことを理解できる。 オ. 冷戦の激化と、日本の独立回復や西側陣営への加入の関係について多角的・多面的に考察できる。 カ. 新憲法の制定について、今日的課題を念頭に意欲的に調べようとしている。	
3 学期	②経済大国・日本の国際的役割 ・世界の奇跡・高度経済成長 ・冷戦と昭和時代の終わり ・戦後と現代の日本文化 ・地域紛争とグローバル化 ・日本の現状とこれから	ア. 諸資料を活用し、高度経済成長時代から平成に至る日本の歩みを、国際社会の動向をふまえて理解することができる。 イ. 冷戦・公害・石油危機などの諸問題とその解決の過程について多角的・多面的に考察することができる。 ウ. 戦後の日本の歩みや社会の変化に関心をもち、意欲的に調べようとしている。	

第3学年 公民的分野 (週3時間)	教科書	『社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して』(帝国書院)
	副教材	未定

## 学習到達目標

現代社会にみられる様々なことがらについて、個人の尊厳と人権の尊重の意義、自由・権利と責任・義務との関係、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活、国際関係などの視点から、特に個人と社会との関わりに注目し、証拠となることがらを適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。授業を中心とする学びのなかで、現代社会に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、世の中で起こる出来事や社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、グローバル化する国際社会の中で自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①現代社会に関する諸課題について知識を身につけ、個人と社会との関わりを中心に理解する。  
②諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- (2) ①社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を身につける。  
②現代社会について思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①現代社会に関する諸事象について、学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。  
②現代社会に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、自国の主権者として適切な行動や判断ができるようになることや、他国の主権を尊重し、協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

## 評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①現代社会に関する諸課題について知識を身につけ、個人と社会との関わりを中心に理解できる。 ②諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。	①社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる課題について公正に判断できる。 ②現代社会の諸課題について思考・判断したことを説明し、それを基に議論することができる。	①現代社会の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究、解決しようとすることができる。 ②現代社会に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、主権者として、国際社会の一員としての自覚を深めることができる。

## 学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう。
  - ① 授業に積極的に参加しましょう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとるくせをつけてください。
  - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしましょう。
  - ③ 予習復習をこまめにしましょう。苦手な人ほど予習も大切。授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわきます。
  - ④ 社会科が苦手な人ほど、社会科は単純な暗記科目であるという誤解をしています。得意な人ほど、一つの利用を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できます。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切です。
- (2) 課題にしっかり取り組みましょう。
 

問題集や調べもの、調査、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーション、ノート提出など様々な形の課題が課せられます。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練です。大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなります。面倒くさがらずに、一生懸命取り組んでください。
- (3) 授業と世の中の接点を意識し、ニュースや新聞で報じられていることとの関係を考えましょう。
 

世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係しています。日

常にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、社会科が得意になるための早道です。

(4) ふとした疑問を大切にしましょう。

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはまます。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれません。「なぜ」にこだわって調べるのは、社会科が大切にすることも基本的なアプローチです。

(5) お家や地域で、政治や経済、国際関係について誰かが話していたら、その話を良く聞いてみてください。学校で習って疑問に思ったことを、お家の方に尋ねるのも、公民では大切な勉強になります。

**年間シラバス** (1年間の学習予定表)

第3学年<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	<p>1. 現代社会</p> <p>①現代社会と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の特色</li> <li>・情報化が進む現代</li> <li>・グローバル化が進む現代</li> <li>・少子高齢化が進む現代</li> <li>・私たちの生活と文化</li> <li>・生活に息づく文化</li> <li>・日本の伝統と文化</li> </ul> <p>②現代社会をとらえる 枠組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的存在として生きる私たち</li> <li>・効率と公正</li> <li>・私たちときまり</li> </ul> <p>2. 政治</p> <p>①日本国憲法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民主主義と日本国憲法</li> </ul>	<p>ア. 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化について理解できる。</p> <p>ア. 現代社会における文化の意義や影響について理解している。</p> <p>イ. 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>イ. 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。</p> <p>ア. 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。</p>	<p><b>【評価の観点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会についての知識・理解</li> <li>・現代社会を理解・解釈するための技能</li> <li>・現代社会の諸課題についての思考・判断・表現</li> <li>・公民的分野の学習に主体的に取り組み、公民的分野で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b> [各学期共通]</p> <p>1. 定期考査の成績</p> <p>定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、社会的な見方、考え方、現代社会についての判断や表現、現代社会に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p> <p>(1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。</p> <p>(2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペー</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主主義と立憲主義</li> <li>・人権保障と法の支配</li> <li>・日本国憲法の成立</li> <li>・国民主権</li> <li>・日本の平和主義</li> <li>・基本的人権の尊重</li> <li>・個人の尊重と憲法上の権利</li> <li>・自由権</li> <li>・平等権と差別されない権利</li> <li>・日本社会の差別の現実</li> <li>・社会権</li> <li>・政治に参加する権利と人権を守るための権利</li> <li>・これからの人権を考える</li> <li>・法の支配を支えるしくみ</li> <li>・権力の分立</li> <li>・憲法の保障・改正と私たち</li> </ul>	<p>ア. 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。</p> <p>ア. 日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。</p> <p>ア. 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	<p>パー, 振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
2 学 期	<p>②民主政治</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民主政治と私たち</li> <li>・国民の願いを実現するために</li> <li>・世論とマスメディア</li> <li>・政党の役割</li> <li>・選挙制度とその課題</li> <li>・国の政治のしくみ</li> <li>・国会の役割としくみ</li> <li>・国会の現状と課題</li> <li>・内閣の役割としくみ</li> <li>・行政の役割と課題</li> <li>・私たちの生活と裁判</li> <li>・人権を守る裁判とその課題</li> <li>・地方自治と私たち</li> <li>・地方自治と地方公共団体</li> <li>・地方公共団体のしくみと政治参加</li> <li>・地方財政の現状と課題</li> <li>・私たちと政治参加</li> </ul> <p>3. 経済</p> <p>①市場経済</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活と経済</li> <li>・経済活動とお金の役割</li> <li>・お金の使い方と経済の</li> </ul>	<p>ア. 国会を中心とする日本の民主政治の仕組みの概要や政党の役割を理解している。</p> <p>ア. 議会制民主主義の意義、多数決原理とその運用の在り方について理解できる。</p> <p>ア. 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。</p> <p>ア. 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>ウ. 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。</p> <p>ア. 市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における</p>	

	<p>考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価格の働きと経済</li> <li>・ 消費者と経済</li> <li>・ 家計の収入と支出</li> <li>・ 消費生活と流通の関わり</li> <li>・ 消費者問題と政府の取り組み</li> <li>・ 企業と経済</li> <li>・ 私たちの生活と企業</li> <li>・ 企業活動のしくみ</li> <li>・ 金融のしくみと働き</li> <li>・ 企業競争の役割</li> <li>・ 働くことの意義と労働者の権利</li> <li>・ 労働環境の変化と私たち</li> <li>・ 企業の社会的責任</li> <li>・ これからの日本経済</li> <li>・ 景気の変動とその影響</li> <li>・ 日本銀行と金融政策</li> <li>・ グローバル化と日本経済</li> <li>・ これからの日本の経済と私たち</li> </ul> <p>②財政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちの生活と財政</li> <li>・ 国の支出と収入</li> <li>・ 社会資本の役割と環境への取り組み</li> <li>・ 社会保障と私たちの生活</li> <li>・ これからの日本の財政</li> </ul>	<p>価格の決まり方や資源の配分について理解している。</p> <p>ア. 現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解している。</p> <p>ア. 勤労の権利と義務、労働組合の意義、労働基準法の本質について理解できる。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的社会に関わろうとしている。</p> <p>ア. 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。</p> <p>ア. 財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	
3 学 期	<p>4. 国際</p> <p>①国際社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紛争のない世界へ</li> <li>・ 国家と国際社会</li> <li>・ 領土を巡る取り組み</li> <li>・ 国際連合の働きとしくみ</li> <li>・ 現代における紛争</li> <li>・ 兵器の脅威と軍縮への努力</li> </ul>	<p>ア. 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなどの事項について理解している。</p> <p>ア. 地球環境、資源・エネルギー、貧困な</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化が進む国際社会</li> <li>・国際社会における日本の役割</li> <li>・貧困解消と環境保全</li> <li>・貧困問題とその解消</li> <li>・地球規模で広がる環境問題</li> <li>・資源・エネルギー問題</li> <li>・国際社会のよりよい発展</li> </ul> <p>②課題の探究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会を目指して</li> </ul>	<p>どの課題の解決のために経済的、技術的な協力などの重要性を理解している。</p> <p>イ. 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。</p> <p>ウ. 平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p> <p>イ. 社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、考えを説明、論述している。</p> <p>ウ. 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	
--	--	--

※学習の順序や学期ごとの学習内容については、担当者の配置により、適宜分担して内容の担当範囲を設定し、学習順序を変更することがある。

第3学年	教科書	なし
社会探究 (週1時間)	副教材	必要な教材を適宜配布する

### 学習到達目標

地理的分野・歴史的分野・公民的分野の教科書的な学習内容を超え、社会科的探究のスキルを獲得する。地理的分野を扱う場合は、現代日本に生きる私たちの視点から、国内や海外の地域的課題に地理的アプローチを用いて、よりよい社会の実現をめざして探究するスキルや姿勢を身につける。歴史的分野を扱う場合は、過去を継承しつつ、現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究するスキルを身につける。公民的分野については、特に政治・経済的分野を中心に現代社会の特色について多面的・多角的に考察し、私たちが生きる現代社会に見られる課題の解決をはかろうとする態度とスキルを身につける。

### 評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	<p>①様々な現代的課題に関連する社会科的知識や理解を、教科書を越えて、取り扱う具体的な問題の状況に即して獲得できる。</p> <p>②様々な史・資料から情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。</p>	<p>①様々な現代的課題に関連する、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>②様々な現代的課題を把握し、解決を視野に入れて構想し、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。</p>	<p>①現代社会に見られる課題の解決をはかろうとする態度を備えることができる。</p>

## 学習方法

(1) 授業を大切にしよう。

- ① 授業に積極的に参加しましょう。教員の話をよく聞き、メモをとるくせをつけてください。
- ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしましょう。

(2) この科目では、課題への取り組みがとりわけ重視され、成績評価の中でも重きを置かれます。

調べもの、調査、グループワーク、ワークシート、レポート、スピーチ、プレゼンテーションなど様々な形の課題が課せられます。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、社会科にとって大切な訓練です。

(3) ふとした疑問を大切にしましょう。

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。町で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはままあります。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれません。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にすることも基本的なアプローチです。

(4) 自分のこだわりや、感性を大切にしましょう。

他の人にはない、あなたのオリジナリティをもって問題解決を提案することが重視されます。

## 年間シラバス (1年間の学習予定表)

第3学年<週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	◆現代的諸課題と地理 ・日本と世界の地域の諸課題 ・GISと巨大プラットフォーム企業の戦略 ・ツーリズムと地域社会・文化遺産	ア. 扱う課題の内容に応じた地理的・歴史的・公民的な基本的知識を備え、課題に即して、教科書内容を超えて詳細かつ高度な知識や概念を身につけている。	【評価の観点】 ・社会事象に関する知識・理解 ・社会事象を理解・解釈するための技能 ・社会事象についての思考・判断・表現 ・社会探究の学習に主体的に取り組み、社会探究で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、社会的な見方、考え方、社会についての判断や表現、社会に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。
2 学期	◆現代的諸課題と歴史 ・社会的課題と歴史 ・外交的課題と歴史	ア. 地図・GIS・統計・図表・年表・史資料などを用いて、課題の解決に必要な社会的情報を読み取り、まとめる技能を身につけている。 イ. 他者との協業様々な現代的課題に関連し、社会概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。	
3 学期	◆金融経済教育 ・起業シミュレーション ・株取引シミュレーション など ◆法教育 ・模擬法廷 ・ルールメイキング など ◆SDGsと私たちの生活 ・貿易ゲーム ・企業活動とSDGs ・NPOとSDGs など	イ. 様々な現代的課題を把握し、解決を視野に入れて構想し、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ウ. 現代社会に見られる課題の解決を、学んだ地理的・歴史的・公民的な知識・概念や見方・考え方を活用し、主体的に課題の解決をはかることによって、様々なレベルの社会に対する貢献をはかろうとする態度を備えることができる。	

			<p>(2)小テストの成績，ノート，レポート，ワークシート，コメントペーパー，振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)・(2)のいずれか、あるいは両方を総合的に評価する。(定期考査を実施しないこともある。)</p>
--	--	--	---

※学習内容・項目はあくまでも例示であり、生徒の関心、担当教員の専門分野などにより、その都度変更する。